

# ◎2002ワールドカップ市民の会の活動とねらい

■宝田良一

若者は憧れの人に出会おうとその人から感動を受け、その人を目標に成長していく。過去に、米国の大リーグ、ベース・ルースやルー・ゲーリックが横浜へやってきて野球熱を盛んにした。その結果、プロ野球が盛んになり、子供たちも野球を行うようになった。二〇〇二年には世界の一九八カ国の頂点に達するサッカーのワールドカップ決勝戦が横浜で行われる。世界中で憧れのサッカー選手の素晴らしいプレーを横浜で見られることは多くの若者に感動を与え、彼らを育てることに繋がることだろう。横浜市民のみならず、世界中の人々がこの決勝戦に酔い、感動を味わい、思い出を作り、明日からの人生を生きる勇氣を与えられ、次なる四年へ向かって進んでいくことだろう。このイベントに横浜市民としてかわかれる事は、最高の喜びとチャンスではないだろうか。「2002ワールドカップ市民の会」はこのチャンスを一人でも多くの市民と一緒に成功させて行きたいという強い思いで誕生した。

## 1 市民の会の誕生

二〇〇二年に開催されるワールドカップは二十一世紀の幕開けに行われる世界最大のスポーツイベントとして日本と韓国の両国で実施されることが決まっていた。しかし、昨年の六月、決勝戦を日本国内で行うことは決定していたが競技場の決定には至っておらず、横浜市と埼玉県で激しく競い合っていた。

横浜市民として、サッカーをはじめとした日本における近代スポーツの情報発信基地としての国際都市横浜を世界にアピールする絶好の機会として位置付け、決勝戦招致に全市民の力を集結し、開催地決定に向かって活動を展開するために「2002年ワールドカップ決勝戦開催を願う横浜市民の会」が誕生したのが平成十一年七月二日であった。八月六日に横浜で決勝戦が行われることがFIFAにより発表になってからは会の名称を改め「2002ワールドカップ市民の会」として現在活動を続けている。

## 2 市民の会の目的

三百四十万人の横浜市民の多くがこのワールドカップ横浜決勝戦に興味を持ち、何らかの関わりをもつことこそ、この一大スポーツイベントが横浜で行われる意義があるのではないかと思う。多くの市民の参加により、その熱気と興奮を結集して一層の盛り上がりを図っていきたい。それを実現するために次の目的にそって活動を展開していきたい。

- ①「2002年FIFAワールドカップ横浜開催推進委員会」と連携・協力し、事業の効果的推進を図る
- ②ワールドカップに関する啓発活動をはじめ、各種イベント等を積極的に展開し、市民各界各層の一層の意識高揚を図る
- ③横浜開港百四十年以来未曾有の国際イベントの意義を内外に広く周知し、大会の成功を期する
- ④広範な各種ボランティアの育成・確保に努め、事業の円滑な運営を図る
- ⑤国際コンベンション都市「横浜」を全世界

- 1 市民の会の誕生
- 2 市民の会の目的
- 3 会員一万五千人+
- 4 組織と今までの活動
- 5 今後の主たる活動

にアピールすることにより横浜のステイタスを高める。

⑥市民レベルでの国際交流の推進

⑦緊張と興奮の連続による市民各層への感動

⑧高度でスリリングなプレーを身近に体験することにより、未来を担う子供たちに夢と希望を与える

⑨サッカーを始めスポーツの一層の振興

⑩経済への波及効果

⑪多くの市民のスポーツ、文化活動に対する関心の向上を図る

### 3 会員一万五千人+

今までに一万五千人十の市民に会員になっていた。その五分の一は小中高の学生さんである。目標の市民一割会員にはまだまだではあるが、日本での開催十県・市の中にあつては大変な数の市民に既に参加していた。だいてる。

会員への会の報告は広報誌を通じて行っているほかホームページでも紹介している。「市民の会ニュース」第三号が今年中に発行される準備が進められている。

また、会員への直接メリットとして、Jリーグ、横浜F・マリノスのゲームのチケットを二枚送付しており、毎月プロサッカー選手のグッズが当たる抽選会を行っている。

### 4 組織と今までの活動

九月十三日には横浜国際総合競技場をバリアフリー、国際都市の視点から市内の主な駅

から競技場までの交通経路ならびに競技場の施設環境等について身障者及び市内在住の外国人に体験・考査していただく見学会を実施した。また、会の活動の効果的推進を図るため、総務・事業・広報・会員拡大の四つの委員会を作り、それぞれの役員を中心にきめ細やかな活動を進めている。総務委員会ではシンボルマーク、記念グッズの製作・販売等を手掛け、事業委員会はコンサート、写真コンテスト、フットサル、トークショー等を担当し、広報委員会はメディアへの対応、情報誌の編集等に関わり、会員拡大委員会は各区でのリクルートで市民に会員になっていただく活動をしている。

### 5 今後の主たる活動

#### ①サッカー広場

MM21の四十三街区(美術館の近く)に、約一・五ヘクタールのサッカー広場を整備し、ワールドカップの広告塔とするとともに横浜スポーツの拠点広場としていきたい、と考えている。サッカーを始めあらゆるスポーツ活動の拠点として位置付け、多くの市民が利用することにより、二〇〇二年FIFAワールドカップの成功に向けての市民の関心を高めるとともにその余韻を将来にわたり維持、発展させる場としたい。この広場では、様々なイベントを通じて日韓の交流や市民同士の交流を深めていきたいと思っている。多くの方々のご協力をいただきながらプロによるサッカー教室の開催や各学校のサッカートーナメント等の実施、フットサルの利用な

ど多くの市民にこのグラウンドでワールドカップとの関わりを経験していただきたい。

#### ②サッカーの泉

横浜駅西口においては市民の会による「サッカーの泉」を設置し、多くの市民がワールドカップを横浜で行うということに関心を持つきっかけにしたい、と考えている。設置された自動販売機で二枚の共通番号のコインを買い、一枚のコインを泉の中へ投げ込み、もう一枚は記念でお持ち帰りいただくことになっている。コインは抽選会を行い、景品が当たる趣向となっている。

#### ③ホスピタリティ

国際都市横浜へ来られる外国のお客様を暖かく迎え入れるために「私は外国語を話せませう」キャンペーンを打ちたいと思っている。英語が話せる人には「I SPEAK ENGLISH」のバッジを胸につけてもらい、スペイン語、ドイツ語、ポルトガル語、韓国語、フランス語など様々なバッジを付けた市民が外国人を歓迎し、ホスピタリティの視点から国際都市横浜を世界にアピールできたら素晴らしいことだと思ふ。市民の会としては、横浜市と連携して、通訳、翻訳をはじめ必要なボランティアを広く募集するとともに効果的な研修を考えているところである。

このように一人でも多くの市民がかかわりあうことのできるワールドカップにしていきたい。そして市民組織によるイベントを通じて、ハマッコの街興しをぜひ実現したいと思う。  
△2002ワールドカップ市民の会会長▽